

平成27年度国際水産資源関係研究開発推進会議 報告書

会議責任者	国際水産資源研究所長
-------	------------

1 開催日時及び場所

日時:平成 27 年 11 月 12 日 外洋資源関係 10:00～12:30
 まぐろ類資源関係 14:00～17:30
 場所:清水テルサ(静岡市清水区島崎町 223)7 階会議室 (議事次第:別添1)

2 出席者所属機関及び人数 29 機関 56 名(出席者名簿:別添2)

3 結果の概要

1)外洋資源関係

議 題	結果の概要
主催者挨拶 来賓挨拶	<p>国際水産資源研究所副所長より、外洋資源関係における国際漁業資源管理やNPFC条約の発効など諸情勢、それらに対する水産総合研究センターの対応の概要ならびに本会議の趣旨の説明があった。</p> <p>水産総合研究センター研究担当理事より、我が国周辺資源の厳しい状況、水研センターの次期中期計画についての検討状況、今後の名称変更・組織改編計画の説明があった。</p> <p>水産庁研究指導課水産研究専門官より、関係機関に対して研究開発推進および水産行政への理解・協力に対し謝意が表され、国際水産資源等を巡る多様な課題と解決のための水産分野における科学研究の重要性、並びに水産庁の対応についての説明があった。</p>
第三期中期計画の概要と重点事項	<p>国際水産資源研究所業務推進部長より、水研センター第3期中期計画における国際水研の担当する研究開発課題等の位置づけと考え方、これらに基づく平成27年度研究課題、受託事業課題等について説明があった。</p>
外洋資源に関する研究開発の総括、連携・協力の現況	<p>国際水産資源研究所外洋資源部長より、担当する漁業資源、国際対応の現状、研究課題及び事業の実施状況、研究成果及び連携協力の状況について説明があった。スナメリ調査の位置づけについて質疑が行われ、漁獲対象種ではないが希少種の保全・現状把握を目的としている旨の回答があった。</p> <p>東北区水産研究所資源海洋部、中央水産研究所海洋・生態系研究センター(国際水研特任部長)、西海区水産研究所海洋資源部、水産工学研究所漁業生産工学部より、各組織における外洋資源関係の研究開発への取り組み状況、研究成果等について報告が行われた。</p> <p>東北区水産研究所報告のトビイカ未利用資源調査報告についてその漁業対象としての有効性、沖縄県における利用状況等について質疑・情</p>

議 題	結果の概要
	<p>報提供が行われた。</p> <p>水産工学研究所からの計量魚探講習会について、全国いか釣り漁業協会より漁業者の参加要望があり、前向きに対応する旨回答があった。日本鯨類研究所から、本年度の出席希望、次年度以降の継続実施の要望がだされた。</p>
研究成果情報	<p>外洋資源部長により、1)「生態系モデル構築に向けた鯨類の摂餌行動に関する研究」、2)「水産データを活用した生態系モデル構築法の確立および生態系特性把握と漁業影響評価への応用」の研究成果の説明があった。1)について鯨類の潜水行動におけるU字潜水とV字潜水の定義と区別、図の表記、調査手法等について質疑が行われ、表記について修正を行うこととした。</p>
<p>総合討論「外洋資源を巡る情勢と研究ニーズ」</p> <p>1) 県・水産団体等からの報告・意見・要望</p> <p>2) 意見交換・とりまとめ</p>	<p>沖縄県水産海洋技術センター</p> <p>まぐろ・かじき類の漁場開発調査、そでいか類の小型鯨類による食害調査についての漁業者からの要望について報告があった。</p> <p>日本鯨類研究所</p> <p>海洋構造等他分野との連携・情報交換の重要性が指摘された。</p> <p>全国いか釣り漁業協会</p> <p>海外いか釣り漁場の縮小と国内資源の状況についての説明、継続的な支援・協力の要請があった。</p> <p>日本トロール底魚協会</p> <p>クサカリツボダイ(NPFC)の資源管理、インド南西海域(SIOFA)の国際資源管理(キンメダイ・メロ)、NAFO水域での操業予定に係るVME対応等、国際資源管理対応への協力継続の要請があった。</p> <p>外洋資源部長より、小型鯨類の食害については目視調査データによる空間分布モデルを用いた操業場所との重なり現状把握が可能、食害の科学的データの整理のため関係者と協議を行うとの方針が示された。これに対し沖縄県水産海洋技術センターより、食害種としてハナゴンドウを含めて検討するよう要請があった。</p> <p>東北区水産研究所資源海洋部長より、アカイカ資源のNPFCにおける検討状況・調査計画について報告があった。また、未利用資源としてのトビイカについて平成28年度水産庁開洋丸調査計画の報告があり、継続的なアカイカ・トビイカ調査の実施方針が示された。</p> <p>外洋資源部長より、NPFC・SIOFA・NAFOへの対応方針、状況について報告があった。</p>
総括	<p>国際水産資源研究所副所長が以下の総括を行った。</p> <p>今回提出頂いたトビイカ・計量魚探・鯨類食害調査等の外洋資源関係の研究ニーズを力として、研究に取り組む。推進会議は産業界からの要望を研究に反映する重要な機会である。</p>

2) まぐろ類資源関係

議 題	結果の概要
<p>主催者挨拶</p> <p>来賓挨拶</p>	<p>国際水産資源研究所副所長より、本会議の趣旨、最近のかつお・まぐろ類資源を取り巻く多様な課題、国際情勢および国際水研の研究・連携協力体制、まぐろ類資源研究への対応状況の概要説明があった。</p> <p>水産総合研究センター研究担当理事より、まぐろ・かつお類資源の厳しい状況と水研センターの総力を挙げた取り組み、次期中・長期計画についての検討状況、今後の名称変更・組織改編計画の説明があった。</p> <p>水産庁研究指導課水産研究専門官より、関係機関に対して研究開発推進および水産行政への理解・協力に対し謝意が表され、国際水産資源等を巡る多様な課題と解決のための水産分野における科学研究の重要性、並びに水産庁の対応についての説明があった。</p>
<p>第三期中期計画の概要と重点事項</p>	<p>国際水産資源研究所業務推進部長より、水研センター第3期中期計画における国際水研の担当する研究開発課題等の位置づけと考え方、これらに基づく平成27年度研究課題、受託事業課題等について説明があった。</p>
<p>まぐろ類資源に関する研究開発の総括、連携・協力の現況</p>	<p>国際水産資源研究所かつお・まぐろ資源部長より、くろまぐろ資源部及びかつお・まぐろ資源部の担当する調査研究を巡る国際情勢、組織体制、研究課題及び関係機関との連携状況、今年度の研究成果及び連携協力の状況について説明があった。</p> <p>中央水産研究所海洋・生態系研究センター(国際水研特任部長)、西海区水産研究所まぐろ増養殖研究センター、開発調査センターより、各組織におけるまぐろ類資源・養殖・漁業関係の調査研究体制と研究課題、研究開発への取り組み状況、研究成果等について報告があった。開発調査センター種苗用クロマグロの釣獲におけるコシナガの誤認に関する報告に関し質疑があり、分類基準、混入割合等の回答があった。</p>
<p>研究成果情報</p>	<p>1) 太平洋クロマグロ0歳魚加入量の広域的なりアルタイムモニタリング体制の構築と加入量速報の公表、2) 日本近海に來遊するカツオの熱帯域資源との関係性についての研究展開、3) 最近の混獲回避措置の議論に対応した研究開発に関する研究成果について、かつお・まぐろ資源部長により説明がなされた。</p> <p>1)の加入量速報公表時期について水産庁増殖推進部漁場資源課より、2014年級第三段階を5月、2014年・2015年級を併せて10月に行うとする修正が示された。</p> <p>検討の結果これらの成果は、今年度成果情報として承認された。</p>
<p>総合討論「まぐろ類資源を巡る情勢と研究ニーズ」</p> <p>1) 県・水産団体等からの報告・意見・要望</p>	<p>福島県水産試験場</p> <p>漁業者からの要望としてカツオの発生量、来遊量予測についての研究開発をお願いしたい。</p> <p>千葉県水産総合研究センター</p> <p>今年の千葉県のカツオ曳き縄漁は平年を上回る好漁で、その原因は海洋環境の特異性で、他県では不漁のため、今後の資源悪化が懸</p>

議 題	結果の概要
	<p>念されることから対策の継続・強化をお願いしたい。</p> <p>東京都島しょ農林水産総合センター 八丈島管内のカツオ曳縄漁は漁獲量・CPUE値ともに1980年以降の過去最低値を記録した。</p> <p>三重県水産研究所 沿岸小型船カツオ曳縄漁は昨年同様極端な不漁であり、不漁原因の解明と情報交換をお願いしたい。</p> <p>和歌山県水産試験場 2年連続のカツオの極端な不漁原因の解明に関する調査研究の継続をお願いしたい。</p> <p>高知県水産試験場 沿岸曳縄船によるカツオ漁は過去最低の昨年を下回り、過去最低を更新する模様。曳縄漁業者の減少が顕著。不漁原因の解明と回復に向けた取り組みの強化をお願いしたい。</p> <p>愛媛県農林水産研究所水産研究センター カツオ漁の水揚げは過去最低の昨年を下回り、不漁原因の解明と情報提供、研究推進をお願いしたい。</p> <p>鳥取県水産試験場 2010年級クロマグロが好漁であることから、旋網漁業者は日本海のクロマグロ資源減少との関連の検討を要望している。</p> <p>宮崎県水産試験場 近海カツオ漁西沖漁場が昨年以上の不漁であり、黒潮ルートの回遊量の減少についての調査研究の協力をお願いしたい。</p> <p>沖縄県水産海洋技術センター まぐろ・かじき漁場調査において試料をリングネットで採取し、国際水研・琉球大学の協力を得て分析している。海洋環境と生息状況の解析について協力をお願いする。</p>
2) 意見交換・とりまとめ	<p>国際水産資源研究所かつお・まぐろ資源部長は、意見や要望に対して次の通り回答した。</p> <p>(1) 資源評価に向けてクロマグロ漁況に対する原因究明を今後実施する。</p> <p>(2) 沖縄県のまぐろ・かじき漁場調査については情報交換を行いながら進める。</p> <p>(3) 近海カツオ漁不漁の原因究明、来遊機構と其の変化、予測技術の開発の要望については、具体的な重点項目として来遊機構の把握とそれを基にした解析を実施する。また、明日と1月のカツオ研究部会において現状の解析を実施する。さらに熱帯域と日本近海との分布のつながりについて現場データの収集と関係機関との情報共有等の連携を進める。</p>

議 題	結果の概要
<p>3)水産団体等からの報告・意見・要望</p>	<p>日本かつお・まぐろ漁業協同組合 本会議資料に記載されている従来の要望に対し、今まで以上にしっかりした対応をお願いしたい。</p> <p>全国漁業協同組合連合会 クロマグロ資源管理、漁獲規制、資源回復策について根拠となる科学データの収集、拡大、推定精度の向上に勤めてほしい。</p> <p>海外漁業協力財団 科学オブザーバー事業に対する連携強化、水産指導者養成研修および次年度CITES会議への協力をお願いしたい。</p> <p>この要望に対し、国際水産資源研究所くろまぐろ資源部温帯性まぐろグループ長より、国際水研として科学オブザーバーの変化に対応して講習内容を検討するとともに、オブザーバーデータの質の向上が必要との発言があった。</p> <p>国際水産資源研究所かつお・まぐろ資源部長は、意見・要望に対して、以下の通り回答した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北太平洋のビンナガについての資源評価は2017年の資源評価に向けて対応を進めるとともに、資源評価の精度向上に向けた漁業データの整備を進める。 ・サメ類については業界・試験場の皆様のご協力連携によりデータの収集に努める。ジンベエザメの生存放流については成果を報告していく。 ・地域漁業管理機関に関する情報提供をスケジュールと工程を示せるよう改善する。 ・メバチ・キハダの選択的漁獲技術については開発調査センターと情報共有しながら技術開発の可能性を探る。 ・太平洋クロマグロの資源研究については従来より重点的に取り組んでおり、当歳魚の加入量の速報を継続するとともに資源解析モデルの改善、成果の普及等に取り組む。 ・混獲回避への取り組みについては効果的で負担の少ない技術の開発を検討する。 ・オブザーバーカバレッジの強化については過度な強化に繋がらないように的確に対応するとともに円滑な実施、データの質の向上に努める。 ・FADs操業の影響の分析については、混獲種への影響を評価するためのデータ収集の可能性について検討する。 ・研究者による操業実態の把握についてはオブザーバーデータの検証や信頼性の向上、及び、資源評価の基礎となる操業状況への理解のために、操業実態などを直接情報収集する機会を増やせるよう取り組みを進める。

議 題	結果の概要
	<p>・MSEプロセスについては、行政・業界と十分な情報交換をしながら取り組む。</p> <p>国際水産資源研究所業務推進部長より、これらの要望については水研センターの次期計画、新たな国際水産資源事業に組み込んだ形での研究計画を検討して行くとの発言があった。</p>
その他	<p>国際水産資源研究所かつお・まぐろ資源部長</p> <p>昨年度のカツオ研究部会、今年度第1回カツオ研究部会（11月13日）および第2回カツオ研究部会（平成28年1月26日）の開催の報告を行った。</p>
総括	<p>国際水産資源研究所副所長が以下の総括を行った。</p> <p>推進会議は現場からの要望を研究に反映する重要な機会であり、クロマグロ、カツオ資源対策等の多様かつ継続的な要望・課題について着実に対応するとともにカツオ研究部会等により問題解決の前進に取り組む。さらに、広報を強化し、成果の確実な普及に努める。</p>

別添 1

平成27年度水産総合研究センター水産業関係研究開発推進会議
国際水産資源関係研究開発推進会議 議事次第

- ・開催日時:平成27年11月12日(木)10:00~17:30
- ・開催場所:清水テルサ(〒424-0823 静岡県静岡市清水区島崎町 223 電話 054-355-3111)

◎第1部 外洋資源関係 10:00~12:30

テーマ・内容:外洋資源(鯨類、底魚類、外洋生態系、外洋性いか類等)及び関連分野の研究開発の現状、問題点、重要課題、実施状況と成果、ニーズと具体的な取り組み等

1. 開 会:国際水産資源研究所 業務推進部長
2. 主催者挨拶:国際水産資源研究所長
水産総合研究センター理事
3. 来賓挨拶:水産庁(増殖推進部)
4. 出席者紹介:業務推進部長
5. 資料確認:業務推進部長
6. 第三期中期計画の概要と重点事項(業務推進部長)
7. 外洋資源に関する研究開発の総括、連携・協力の現況(外洋資源部長等)
 - (1) 国際水産資源研究所 外洋資源部
 - (2) 東北区水産研究所 資源海洋部
 - (3) 中央水産研究所 海洋・生態系研究センター
 - (4) 西海区水産研究所 資源海洋部
 - (5) 水産工学研究所 漁業生産工学部
8. 研究成果情報(業務推進部長・外洋資源部長等)
休憩
9. 総合討論「外洋資源を巡る情勢と研究ニーズ」(業務推進部長)
10. 外洋資源関係の研究開発に関する総括(国際水産資源研究所長)

◎第2部 まぐろ類資源関係 14:00～17:30

テーマ・内容:かつお・まぐろ類資源及び関連分野の研究開発の現状、問題点、重要課題、実施状況と成果、ニーズと具体的な取り組み等

1. 開 会:国際水産資源研究所 業務推進部長
2. 主催者挨拶:国際水産資源研究所 所長
水産総合研究センター 理事
3. 来 賓 挨 拶:水産庁(増殖推進部)
4. 出席者紹介:業務推進部長
5. 資 料 確 認:業務推進部長
6. 第三期中期計画の概要と重点事項(業務推進部長)
7. まぐろ類資源に関する研究開発の総括、連携・協力の現況
 - (1)国際水産資源研究所 くらまぐろ資源部、かつお・まぐろ資源部
 - (2)中央水産研究所 海洋・生態系研究センター
 - (3)西海区水産研究所 まぐろ増養殖研究センター
 - (4)開発調査センター
8. 研究成果情報(業務推進部長・まぐろ資源二部長等)
休憩
9. 総合討論「まぐろ類資源を巡る情勢と研究ニーズ」(業務推進部長)
10. まぐろ類資源関係の研究開発に関する総括 (国際水産資源研究所長)

別添 2

平成27年度水産総合研究センター水産業関係研究開発推進会議
国際水産資源関係研究開発推進会議出席者名簿

	機 関 名	所 属 ・ 職 名	氏 名	外洋	まぐろ
1	水産庁	増殖推進部 研究指導課 水産研究専門官	市川 忠史	○	○
		増殖推進部 漁場資源課 課長補佐(国際資源班)	川 端 淳	○	○
		資源管理部 漁業調整課 課長補佐(指定漁業第4班)	福井 真吾		○
2	宮城県水産技術総合センター	環境資源部長	千田 康司	○	○
		環境資源部 副主任研究員	小野寺 恵一	○	○
3	福島県水産試験場	主任研究員	池川 正人		○
4	東京都島しょ農林水産総合センター	振興企画室 主任研究員	中尾 忠司		○
		八丈事業所 研究員	尾形 梨恵		○
5	千葉県水産総合研究センター	上席研究員	小林 豊	○	○
6	静岡県水産技術研究所	研究統括監	増元 英人		○
7	三重県水産研究所	研究管理監	山田 浩且		○
8	和歌山県水産試験場	資源海洋部長	武田 保幸		○
9	高知県水産試験場	漁業資源課長	田ノ本 明彦		○
10	愛媛県農林水産研究所 水産研究センター	主任研究員	河野 芳巳		○
11	鳥取県水産試験場	漁場開発室長	石原 幸雄		○
12	宮崎県水産試験場	経営流通部長	坂本 龍一		○
13	鹿児島県水産技術開発センター	研究専門員	中野 正明		○
14	沖縄県水産海洋技術センター	海洋資源・養殖班 班長	平手 康市	○	○
15	国立大学法人 京都大学	フィールド科学教育研究センター 特定研究員	市川 光太郎	○	○
16	一般社団法人 日本鯨類研究所	調査研究部長	田村 力	○	
17	一般社団法人 漁業情報サービスセンター	生産流通部長	藤田 真		○
18	日本かつお・まぐろ漁業協同組合	顧問	魚住 雄二		○
		国際部 調査役	角内 市子		○
20	全国漁業協同組合連合会	漁政部 専任部長役	待場 純		○
21	一般社団法人 全国いか釣り漁業協会	主査	武下 太郎	○	
22	一般社団法人 日本トロール底魚協会	業務課長	秋本 真彦	○	
23	公益財団法人 海外漁業協力財団	技術顧問	時村 宗春	○	○
24	独立行政法人 水産大学校	講師	中村 武史	○	
25	水産総合研究センター 本部	理事(研究開発担当)	福田 雅明	○	○
		経営企画室長	近藤 喜清	○	○
		研究開発コーディネーター	高尾 芳三	○	○
26	水産総合研究センター 東北区水産研究所	資源海洋部長	岩崎 俊秀	○	
27	水産総合研究センター 西海区水産研究所	資源海洋部長	山田 陽巳	○	○
		まぐろ増養殖研究センター長	岡 雅一		○
28	水産総合研究センター 水産工学研究所	所長	前野 幸男	○	○
		漁業生産工学部長	東 照雄	○	○

	機 関 名	所 属 ・ 職 名	氏 名	外洋	まぐろ
29	水産総合研究センター 開発調査センター	開発調査専門役	清 水 弘 文	○	○
		資源管理開発調査グループリーダー	小 河 道 生		○
		資源管理開発調査グループ 調査員	黒 坂 浩 平		○
		浮魚類開発調査グループ 調査員	上 原 崇 敬		○
		浮魚類開発調査グループ 調査員	木 村 拓 人		○
30	水産総合研究センター 国際水産資源研究所	副所長	中 野 秀 樹	○	○
		業務推進部長	八 吹 圭 三	○	○
		特任部長	森 永 健 司	○	○
		業務推進課長	田 中 勝 久	○	○
		情報係長	井 上 和 樹	○	○
		くろまぐろ資源グループ長	鈴 木 伸 明		○
		くろまぐろ生物グループ長	大 下 誠 二		○
		温帯性まぐろグループ長	伊 藤 智 幸		○
		かつお・まぐろ資源部長	西 田 宏	○	○
		まぐろ漁業資源グループ長	岡 本 浩 明		○
		混獲生物グループ長	南 浩 史		○
		かつおグループ 研究員	芦 田 拓 士		○
		外洋資源部長	一 井 太 郎	○	○
		鯨類資源グループ長	木 白 俊 哉	○	
外洋生態系グループ 主任研究員	米 崎 史 郎	○			

平成 27 年度国際水産資源関係研究開発推進会議第 1 回カツオ研究部会 報告書

- 1 開催日時及び場所 日時 平成 27 年 11 月 13 日（金）9:30～11:00
場所 清水テルサ 7 階会議室 C （議事次第：別添 1）
- 2 出席者所属機関及び人数 17 機関 30 名 （出席者名簿：別添 2）
- 3 結果の概要

議 題	結果の概要
国際資源評価等推進事業かつおサブユニット推進検討会の結果について	<p>かつお・まぐろ資源部長が、6月に開催した左記検討会での議論内容及びその後の漁獲状況等について説明した。</p> <p>カツオとビンナガと漁場変更、九州海域での漁獲状況等についての精査の必要性が指摘された。</p>
WCPFC科学委員会第11回会合での議論について	<p>かつお・まぐろ資源部長が、8月に開催された左記会合で得られた情報をもとに、中西部太平洋における主要まぐろ類の漁獲状況や、かつおに関する勧告事項等を説明した。今次会合においては、和歌山・千葉県の曳き縄での装備向上をふまえたデータ分析結果について発表を行なったことから、その結果についても紹介した。</p>
最近の研究成果をふまえたカツオ分布回遊の考え方の整理	<p>かつお・まぐろ資源部長が、カツオについて、その主群を対象に加入・来遊過程を分析する調査の必要性を説明し、アーカイバルタグによる滞在海域のデータ等をもとに、沿岸春漁を予測する焦点となる海域について指摘した。</p> <p>さらに、これまで重要とされていた海域よりも東方の回遊ルートが、秋漁を分析する上で重要という指摘や、エルニーニョ現象や、沖縄海域の中規模渦との関係等、海洋環境との関係性の分析が当該課題には必要性であるとのコメントが得られた。</p>
第2回カツオ研究部会での話題提供について	<p>左記部会は来年1月26日に国際水研で開催することとし、和歌山・千葉県のほか数県から、各地先への回遊の考え方について整理して発表していただくこととした。</p>

別添1

平成27年度国際水産資源関係研究開発推進会議
第1回カツオ研究部会

日時：平成27年11月13日 9時30分～12時

会場：清水テルサ 中会議室C

議事次第

1. 挨拶
2. 国際資源評価等推進事業カツオサブユニット推進検討会（2015年6月）の結果について
3. WCPFC（中西部太平洋まぐろ類委員会）科学委員会第11回会合（2015年8月）での議論について
4. 最近の研究成果をふまえたカツオ分布回遊の考え方の整理
5. 第2回かつお研究部会（2016年1月）での話題提供について
6. その他

平成 27 年度第 1 回カツオ研究部会

出席者名簿

平成 27 年 11 月 13 日
清水テルサ 7 階 中会議室 C

所 属	氏 名
水産庁資源管理部漁業調整課	福井真吾
水産庁増殖推進部研究指導課	市川忠史
沖縄県水産海洋技術センター	平手康市
鹿児島県水産技術開発センター	中野正明
宮崎県水産試験場	坂本龍一
高知県水産試験場	杉本昌彦
愛媛県農林水産研究所水産研究センター	河野芳巳
和歌山県水産試験場	武田保幸・小林慧一
三重県水産研究所	山田浩且
静岡県水産技術研究所	増元英人・石田孝行
東京都島しょ農林水産総合センター	中尾忠司・尾形梨恵
千葉県水産総合研究センター	小林 豊
福島県水産試験場	池川正人
宮城県水産技術総合センター	千田康司・小野寺恵一
一般社団法人海外まき網漁業協会	紀野千尋
一般社団法人漁業情報サービスセンター	藤田 真
全国漁業協同組合連合会	待場 純
国立研究開発法人水産総合研究センター 本部 開発調査センター 国際水産資源研究所	高尾芳三 小倉未基・黒坂浩平 中野秀樹・八吹圭三・森永健司・西田 宏 芦田拡士・越智大介

